

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

ひびき保育園

横浜市神奈川区松見町 1-10-3

運営主体: 社会福祉法人 そだちの杜

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価 (評価結果についての講評)	2~4 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	5~7 ページ
● 分類・項目別評価結果	8~18 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	19~26 ページ
● 利用者本人調査分析	27~29 ページ
● 事業者コメント	30 ページ

公表日: 2017 年 4 月 24 日

実施機関: 特定非営利活動法人市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ひびき保育園（保育所）		
報告書提出日	2017年3月24日	評価に要した期間	9ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2016年7月18日～2017年1月24日	① 前回第三者評価を経験している職員には会議の中で簡単に説明し、初めての職員には個別に説明をした。 ② 非常勤職員を含む全職員が各自で記入した。 ③ 各個人が記入したものと持ち寄り、各フロアのグループに分かれて、一項目ずつ確認していった。 ④ それを基に担当者が一つに整理し、園長と協議してまとめた。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2016年12月5日～12月16日	① 全園児の保護者（57世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日：第1日 2017年2月8日 第2日 2017年2月10日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 その後書類調査、園長・主任に面接調査 ② 昼食：園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：各クラスで保育観察。 園長・主任に面接調査。 [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。各クラスで保育観察。 その後、保育士3名、栄養士1名、 非常勤職員1名に面接調査 ② 昼食：園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：各クラスで保育観察。 その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日：第1日 2017年2月8日 第2日 2017年2月10日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

ひびき保育園は JR 横浜線大口駅西口から歩いて 6 分ほどの、住宅街の中にあります。JR 貨物線の高架が脇を通っていて、隣には広い公園があります。商店街に近いですが、自然豊かな公園が複数あり、子どもたちの散歩コースになっています。

ひびき保育園は平成 21 年（2009 年）4 月に、社会福祉法人そだちの杜によって開設されました。運営法人は他に南区で 1 園保育園を運営しています。

園舎は鉄筋造 3 階建てで、床材はヒノキを用いています。2 階には広いホールがあり、ランチルームとしても用いています。3 階のテラスでは、プランターを用いて様々な野菜を育てています。夏には子どもたちがプール遊びを楽しんでいます。

定員は 60 名（産休明け～5 歳児）、保育時間は平日（月曜日～金曜日）は 7:00～20:00、土曜日は 7:00～18:00 です。

保育理念として「子ども一人ひとりを大切に、保護者と共感しあいながら保育を進め、地域・社会に貢献できる保育園を目指します」、保育目標として「早寝・早起き・午前昼寝の実践」「基礎的な身体の動きを育てる」「自己肯定感・生きる意欲を育む保育」「ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいのある子どもない子どもも、ともに楽しく暮らす」を掲げています。

◆ 高く評価できる点

1、子どもたちはたくさん身体を動かす中で、様々なことを習得しています

園は、保育目標に「基本的な身体の動きを育てる」を掲げ、楽しく身体を動かすことに力を入れています。子どもたちの朝は雑巾掛けで始まります。幼児は、保育士の「ヨーイドン」の合図で一斉に長いホールを雑巾掛けしています。子どもたちはしっかりと腰をあげて、床を足で強く蹴っています。朝のリズム運動は 0 歳児からおこなっていて、年齢や発達に合わせてプログラムを調整しています。保育士のピアノに合わせて、子どもたちは楽しそうにのびのびと身体を動かします。毎朝おこなっているので、乳児でも身体の動きが身に付いていて、保育士の指示を理解し動くことが出来ます。また、室内遊びでもマットや跳び箱、平均台等を取り入れ、楽しみながら身体を動かせるように工夫しています。

朝のリズム運動は、1・2 歳児、3・4・5 歳児がそれぞれ一緒におこなっていて、身体を動かす中でお互いの差を理解し、年上の子どもが年下とペアを組む時に力を調整したり、年下の子どもが年上の子どもの動きを真似したりする姿が見られます。給食の後の歌の会では、2～5 歳児と一緒に歌い、踊りを楽しみます。また、一緒に散歩に出かけたり、5 歳児が乳児の着替えや食事の準備を手伝ったりと日常的に異年齢で交流する機会があります。

晴れていれば毎日、子どもたちは散歩に出かけています。近くの公園で思いっきり身体を動かす、遠くまで歩くなど散歩の目的に合わせて距離や行先を調整しています。片道 45 分ほどかけて、遠くの公園に行くこともあります。散歩では、地域住民と挨拶を交わしたり、電車や商店を見たり、季節の花や実、虫などを観察したりと、身体を動かすだけでなく社会性や自然への興味も養っています。指導計画には、散歩や運動だけでなく製作や表現活動などがバランスよく組みこまれていて、子どもが様々な経験を積めるように工夫されています。

子どもたちは、たくさん身体を動かす、元気いっぱいのにびのびと自分を表現し、園生活を楽しんでいきます。

2、障がいのある子どもとない子どもが、ともに楽しく生活できるように支援しています

園は、保育目標に統合保育を掲げ、障がい児を積極的に受け入れています。障がい児担当の保育士を配置し、クラスの中で一緒に過ごせるように見守り、子どもの様子を見ながら必要な手助けができるようにしています。朝の雑巾掛けやリズム運動は一緒に行いますが、9時半からのクラス活動の時間には、活動内容によっては個別指導の時間を取っています。一人一人の子ども状況に応じて個別のメニューを用意し、運動面や手先を使う等の活動をしています。

保育士は、障がいのある子どもの気持ちを他の子どもに伝えるなどの仲立ちをし、子ども同士が自然に関われるように働きかけています。このような保育士の働きかけもあり、子どもたちは障がいのある子どもをクラスの仲間として受け入れ、さりげなくやり方を教えるなどの手助けをしています。障がいのある子どもも友達と一緒に生活を楽しんでいます。

園は、一時保育でも積極的に障がい児を受け入れ保護者の相談にのる等の支援をしていて、セーフティネットとしての役割を果たしています。

3、保育士は方向性を共有し、自信をもって保育にあたっています

保育理念、保育方針、保育目標を玄関、図書室（本の部屋）、事務室などに掲示するとともに、年度初めの職員会議で、園長が全職員に説明しています。また、職員の異動があった時などにもその都度会議で取り上げ、確認しています。クラス会議やブロック会議等で具体的な事例について話し合う中で、保育の内容が保育理念や方針に沿っているかを確認しています。

年度末には、保育士は、クラス、保育内容、個人の項目ごとに自己評価をして次年度に向けた目標設定をし、職員会議で発表しています。このような取り組みを通し、保育士は方向性を共有し、自信を深めていて、連携する体制を作り上げています。

4、地域の施設として、子育て支援に取り組んでいます

地域の子育て支援事業としては、一時保育、園舎開放、交流保育、育児講座などを実施しています。一時保育は一時保育室を用いて一日定員6名で受け入れていて、担当保育士が対応していますが、リズムや給食は幼児クラスと一緒にいるなどの交流もあります。交流保育として、ランチ交流、一緒に散歩、リズム遊びを実施し、子どもたちと交流しています。育児講座としては、「親子ふれあい遊び（ベビーマッサージ）」、「おいしく食べよう！楽しく食べよう！」「つくって遊ぼう」を実施しています。また、参加者からの育児相談にも積極的に応じています。

地域との交流も積極的に行っていて、毎日の散歩で保育士と子どもたちが地域住民と挨拶を交わすほか、隣の公園で地域住民が行っている朝の体操に子どもたちが参加しています。また、近くの高齢者デイサービスのお年寄りを園の行事に招待したり、子どもたちが訪問して踊りや歌を披露するなどし、交流しています。地域のお祭り「松見まつり」では、公立保育園と一緒に保育士が子育て支援のブースを出しています。

このように、園は地域の施設として、根付いています。

◆ 独自に取り組んでいる点

1、生体の生活リズムに沿って、早寝・早起き・午前昼寝を実践しています

園は、1日24時間の生体の生活リズムを大切にしている、早寝・早起き・午前昼寝を実践しています。午前8時45分の雑巾掛けや手押し車、リズム運動から活動を開始し、体操や散歩、製作などのクラスでの活動を行った後、子どもたちは午前昼寝をとります。たっぷり休息した後の給食では、途中眠くなることもなくゆったりと給食を楽しみます。午後の活動では、元気いっぱい身体を動かします。

保護者に対しては、年度始めの全体懇談会で園の大切にしていることを具体的に説明しています。全体懇談会の前には親子リズムの会を実施し、保護者が園の取り組みを体験できるようにしています。また、生活調査アンケートを実施した後に個別面談を行い、保護者が園の方針を理解できるように働きかけています。今回の保護者アンケートでも、日常の保育内容についての項目の評価が非常に高く、自由記述にも生活リズムに沿ったプログラムを評価する意見が複数ありました。

◆ 改善や工夫が望まれる点

1、中長期的な計画の作成が期待されます

運営法人は、現在第3園を建設中で、将来についての経営ビジョンは持っています。また、障がい児の発達に寄与するプログラムの開発や地域向けの新たな取り組みなど、次代の組織運営に向けての検討もしています。ただし、中長期的な計画として文書化することはしていません。中長期的な計画を作成し、職員や保護者に園の目指す姿を提示していくことが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・保育理念は「子ども一人ひとりを大切にし、保護者と共感し合いながら保育を進め、地域・社会に貢献できる保育園を目指します」としており、利用者本人を尊重したものとなっています。
- ・虐待に関するマニュアルがあり、虐待に関して職員間でよく話し合われています。虐待が疑われる場合あるいは虐待が明白になった場合は神奈川県子ども家庭支援課や中央児童相談所に連絡することになっています。
- ・保育士は、子どもの人格を傷つけないように職員会議などで話し合いを重ねています。保育士が子どもの自尊心を大切にしている場面を観察時にも見ることが出来ました。
- ・守秘義務や個人情報保護に関する規程があり、入職時に全職員に周知しています。保護者に対しては、入園説明会で個人情報の取り扱いについて説明し、写真の掲載等に関する同意書を取っています。個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管し、個人情報管理規程に沿って管理しています。
- ・子どもに対して威圧的な言葉遣いがないように職員間で注意し合っています。子どもの呼称は「ちゃん」「くん」づけで呼んでいて、呼び捨てにはしていません。子どもたちと親しい関係を築けるよう、保育士を「先生」ではなく名前で呼んでいます。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・子どもの態度や表現をしっかりと受け止め、子どもたちの気持ちや意向を引き出しており、指導計画に反映させています。
- ・3・4・5歳児、1・2歳児がそれぞれ合同で行う朝のリズム運動や2～5歳児が一緒に行う昼の歌の会のほか、異年齢で運動遊びをしたり、一緒に散歩に行ったりと日常的に交流しています。5歳児は、午前睡の後に1歳児の手伝いをしています。
- ・子ども同士のけんかについては、人間関係を作るためには大切との考えから、自分達で解決できるよう出来るだけ見守るようにしています。どうしても解決できない場合には、保育士が双方の気持ちを聞き、子ども自身が納得して解決できるように働きかけています。
- ・雨でない限り毎日、散歩に出かけています。散歩先で身体を動かして遊ぶ、たくさん歩くなど散歩の目的に合わせて距離を決めています。3歳児～5歳児は、足の働きを育て土踏まずの形成を進めるため草履での散歩を取り入れています。
- ・園は、保育目標に「基礎的な身体の動きを育てる」を掲げていて、幼児の朝夕の雑巾掛けや手押し車、0歳児からの毎朝のリズム運動、遠出の散歩などの取り組みをしています。室内活動でも巧技台やマット、はしご、鉄棒、乳児用トランポリン等を用い、楽しく身体を動かせるよう工夫しています。
- ・食育の取り組みとして年齢に応じたクッキングを行っています。魚の解体ショー、栽培した大根を用いてのたくわん作り、味噌作り、お弁当箱に給食を詰めて出かけるなど、子どもが楽しみながら食に興味を持てるような取り組みを多数行っています。
- ・旬の食材を多く取り入れた、和食中心のメニューとなっています。主食は毎日ごはん、2～5歳児は胚芽米（0・1歳児は精白米）を用いています。
- ・園は「生体の生活リズム」を大切にしている、家庭で早起き、早寝がスムーズにできるよう午前昼寝を実施しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・0、1、2歳の個別指導計画を作成しています。個別の目標は、発達状況などに応じて、柔軟に見直しをおこなっています。幼児についても配慮の必要とする子どもについては個別指導計画を作成しています。
- ・東部地域療育センターから依頼されるなど、特に配慮される子どもを積極的に受け入れる姿勢があります
- ・多くのクラス活動では障がい児を特別扱いせず合同の保育をしています。特別に障がい児に配慮したメニューもあり、保育士は必要に応じて選択しています。
- ・アレルギー対応マニュアルが用意されており、職員は必要な知識や情報を持っています。アレルギー食を提供するときには、専用トレーを使用して、誤食を防ぐようにしています。
- ・第三者委員を決めており、苦情解決まで第三者を交えて対応する仕組みがあります。苦情が出された場合、職員会議などで職員が周知するようにしています。
- ・健康管理、衛生管理、安全管理等の各種マニュアルを整備しています。新年度の職員会議でマニュアルの読み合わせをし、職員に周知しています。
- ・年2回の内科健診、年1回の歯科健診、毎月の身体測定があり、健康台帳に記録しています。内科健診、歯科検診の結果は、一人一人用紙に記載し保護者に伝えています。
- ・毎月地震や火事等を想定した避難訓練を実施しています。広域避難場所への避難訓練も行っています。

4、地域との交流・連携

- ・一時保育は一時保育室を用いて一日定員6名で受け入れていて、担当保育士が対応していますが、リズムや給食は幼児クラスと一緒にいるなどの交流もあります。また、障がいなどの特別な課題がある子どもも受け入れていています。
- ・交流保育として、ランチ交流、一緒に散歩、リズム遊びを実施し、子どもたちと交流しています。
- ・育児講座として、「親子ふれあい遊び（ベビーマッサージ）」、「おいしく食べよう！楽しく食べよう！」「つくって遊ぼう」を実施しています。
- ・地域のお祭り「松見まつり」では、公立保育園と一緒に保育士が子育て支援のブースを出しています。
- ・毎日の散歩では、保育士と子どもたちは地域住民と挨拶を交わし、会話しています。また、隣の公園で地域住民が行っている朝の体操に、子どもたちが参加しています。
- ・年長児は近隣の保育園とドッジボール大会をするなどし、交流しています。小学校とは幼保小連携事業で年長児が交流しています。また、近隣の高齢者デイサービスを子どもたちが訪問して踊りや歌を披露するなどしています。

5、運営上の透明性の確保と継続性


- ・職員の倫理規定を定められており、職員に周知しています。他施設での不適切な事例などを職員間で情報共有し、それらの行為をおこなわないように務めています。
- ・廃材を利用して帽子入れなどを制作したり、牛乳パックなどを教材として再利用してゴミの減量化に取り組んでいます。ただし、園として環境への取り組みについては明文化しておりません。
- ・保育理念、保育の基本方針は明文化し、玄関ホール、図書室、事務室等に掲示しています。また、職員に配布しているハンドブックの中に記載しています。
- ・全体像として法人としての将来の経営ビジョンはありますが、中長期計画として文書化されたものではありません。中長期計画を早急に作成し、職員や保護者に提示していくことが期待されます。

6、職員の資質向上の促進

- ・人材育成計画が策定されており、それに基づいて研修がおこなわれています。職員は年度の初めに目標を設定し、年度末に園長、主任との面談でその到達度を確認しています。
- ・障がい者保育に関する全国の研究会に参加したり、他の保育園と交換研修会を開催するなど、園外の大会や実地研修に積極的に取り組んでいます。
- ・非常勤職員の指導担当は主任となっています。クラスの保育士の配置で、常勤と非常勤保育士を必ず組み合わせており、相互の長所を吸収できるような仕組みを作っています。
- ・月間指導計画では、保育士はその期を振り返り記録する書式が定められています。振り返りは、期のはじめに立てた計画に対しての評価で、意図した保育の狙いと関連づけておこなわれています。
- ・職員は自己評価シートで毎年、振り返りをおこなっています。
- ・発達心理学の専門家に保育を見てもらいなど外部の専門家から評価、指導を受ける仕組みがあります
- ・保育所としての自己評価する書式が整っており、それに基づいて園としての自己評価をおこなっています。

分類別評価結果


※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。

※  ← 「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「子ども一人ひとりを大切にし、保護者と共感し合いながら保育を進め、地域・社会に貢献できる保育園を目指します」としており、保育方針は「・子育ての科学に基づき、ヒトとしての生体の生活リズムを守り育て、発達を保障する保育、・明るく楽しく元気よく、日々生活できる保育園を目指します」としています。また、園目標は「・早寝、早起き、午前昼寝の実施、・基礎的な身体の動きをしっかりと身に付ける、・自己肯定感、生きる意欲を育む、・ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいのある子どももない子ども、ともに楽しく暮らす」となっており、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・保育観察の中で、保育内容が保育の基本方針に沿ったものとなっていました。 ・保育課程は、各年齢別に子どもの保育目標を設定し、保育の狙いを定めており、子どもの最善の利益を第一義にしています。 ・子どもの態度や表現をしっかりと受け止め、子どもたちの気持ちや意向を引き出しており、指導計画に反映させています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>  <p>(1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。</p> <p>(2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。</p> <p>(3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会の時に保護者に面接しています。入園説明会の時には、子どもにも一緒に来てもらっていて、保育をしながら観察を行っています。 ・低年齢児については、クラスをグループに分けてそれぞれ担当保育士を決めており、一定の期間、主担当者を決めています ・指導計画を作成するときには、その期の振り返りを行っており、子どもの発達や状況に応じて作成しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・保育室はすべてベランダや園庭に大きく開かれていて、通風・換気は十分確保されており、臭いを排除することが簡単にできる構造となっています。
- ・0歳児の保育室には沐浴設備が備えられています。沐浴施設や温水シャワー設備は常に清潔に保たれています。
- ・0歳児1歳児の保育室は、小さなコーナーが用意されており、月齢によってグループに分けて保育室を使っています。
- ・2階は大きなホールとなっており、様々な活動で異年齢交流ができます。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。
- (2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。


- ・0、1、2歳の個別指導計画を作成しています。個別の目標は、発達状況などに応じて、柔軟に見直しをおこなっています。幼児についても配慮の必要とする子どもについては個別指導計画を作成しています。トイレトレーニング、離乳食など個別指導計画の重要部分について保護者に説明し、同意を得ています。
- ・入園時に児童票に生育歴などを記載したものを提出してもらっています。入園後は、経過記録に記入しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- (1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・東部地域療育センターから依頼されるなど、特に配慮される子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。
- ・障がい児の研修に職員が参加し、報告書を作成し、そのコピーを職員に渡して職員間で情報を共有しています。
- ・保護者の了解の下に東部地域療育センターからの助言や指導を受ける体制を取っています。
- ・多くのクラス活動では障がい児を特別扱いせず合同の保育をしていますが、特別に障がい児に配慮したメニューもあり、保育士は必要に応じて選択しています。一時保育の障がい児も一緒にクラスの中に入れて合同で保育をすることも普通におこなわれています。
- ・虐待に関するマニュアルがあり、虐待に関して職員間でよく話し合われています。虐待が疑われる場合あるいは虐待が明白になった場合は神奈川県子ども家庭支援課や中央児童相談所に連絡することになっています。
- ・アレルギー対応マニュアルが用意されており、職員は必要な知識や情報を持っています。アレルギー食を提供するときには、専用トレーを使用して、誤食を防ぐようにしています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍など文化や生活習慣の違いなども、ほかの子どもたちが理解できるように配慮する用意はあります。
I - 6 苦情解決体制  (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。 (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・入園のしおりに苦情対応についての説明があり、その中で第三者委員が2名紹介され、電話番号も記載されています。 ・行事を実施したときに、保護者のアンケートを取っています。保護者懇談会の時にも保護者からの意見や要望は聴いています。 ・第三者委員を決めており、苦情解決まで第三者を交えて対応する仕組みがあります。苦情が出された場合、職員会議などで職員が周知するようにしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ - 1 保育内容[遊び]  (1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。 (2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。 (3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。 (4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。 (5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。 (6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各保育室の棚には、子どもの目の高さにおもちゃを配置し、子どもが自由に取り出して遊べるようにしています。おもちゃは乳児会議、幼児会議等で話し合い、子どもの発達や興味、関心に合わせて入れ替えています。 ・保育士は子どもの遊ぶ様子を見守り、一人一人の子どもが落ち着いて遊べるように遊びの場を調整したり、一緒に遊ぶ中で遊び方のヒントを示したりしています。遊びに上手く入れない子どもには、声をかけて誘い、保育士自身が遊びを楽しんでいる様子を見せることで、子どもが自然に遊びに入れるよう支援しています。 ・子どもたちは、大根やかぶ、ゴボウ、トマト、キュウリ、ゴーヤ、ジャガイモなどの季節の野菜を育てています。栽培した野菜は、クッキングで用いたり、給食で食べたりしています。飼育としては、カブトムシやクワガタを育てています。 ・昼食後の自由遊びの後には、歌の時間として2歳児から5歳児までと一緒に歌い、踊る時間を設けています。5歳児は昼食後に園長による読み聞かせの時間があります。 ・子ども同士のけんかについては、人間関係を作るためには大切との考えから、自分達で解決できるよう出来るだけ見守るようにしています。どうしても解決できない場合には、保育士が双方の気持ちを聞き、子ども自身が納得して解決できるように働きかけています。言葉で自分の気持ちを表現できない乳児に対しては、保育士が、間に入って止めお互いの気持ちを代弁し、双方の子どもが納得できるようにしています。 ・3・4・5歳児、1・2歳児がそれぞれ合同で行う朝のリズム運動や2～5歳児が一緒に行う昼の歌の会のほか、異年齢で運動遊びをし

たり、一緒に散歩に行ったりと日常的に交流しています。5歳児は、午前睡の後に1歳児の手伝いをしています。年末のお楽しみ会で3・4・5歳児の3人組を作ったことをきっかけにして、3人組での活動を定期的に行うなど、異年齢での活動を積極的に行っています。




- ・雨でない限り毎日、散歩に出かけています。散歩先で身体を動かして遊ぶ、たくさん歩くなど散歩の目的に合わせて距離を決めています。毎日の積み重ねの結果、子どもたちは、強い脚力が育っています。3歳児～5歳児は、足の働きを育て土踏まずの形成を進めるため草履での散歩を取り入れています。
- ・園は、保育目標に「基礎的な身体の動きを育てる」を掲げていて、幼児の朝夕の雑巾掛けや手押し車、0歳児からの毎朝のリズム運動、遠出の散歩などの取り組みをしています。室内活動でも巧技台やマット、はしご、鉄棒、乳児用トランポリン等を用い、楽しく身体を動かせるよう工夫しています。



Ⅱ－1 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・食事については、3歳児の途中から自分でよそことを始め、5歳児は主菜、副菜、汁とも自分でよそっています。子どもたちは見本を見ながらよそっていますが、保育士は、一人一人の子どもに合わせて食べられるように量を調整するなどしています。
- ・食育の取り組みとして年齢に応じたクッキングを行っています。幼児は自分達で育てた野菜を用いて調理しています。乳児は野菜をちぎるなどし、食材に触れています。また、魚の解体ショー、栽培した大根を用いてのたくわん作り、味噌作り、お弁当箱に給食を詰めて出かけるなど、子どもが楽しみながら食に興味を持てるような取り組みを多数行っています。
- ・旬の食材を多く取り入れた、和食中心のメニューとなっています。主食は毎日ごはん、2～5歳児は胚芽米（0・1歳児は精白米）を用いています。卵は使用していません。
- ・2～5歳児は、2階ホールを用い、皆で楽しくおしゃべりしながら食べています。
- ・毎月の職員会議で、子どもの食べ具合について話し合い、献立や調理に反映しています。給食室が2階ホールに面していて、食事をしている子どもたちの様子を見ることが出来ます。調理職員は、子どもたちと会話し、直接感想を聞いています。
- ・毎月献立表を作成し、保護者に配付しています。毎月給食だよりを発行し、献立作成のポイントや旬の野菜の紹介などを掲載しています。給食だよりにレシピを掲載しています。保育参加の時に、おやつを提供しています。
- ・園は「生体の生活リズム」を大切にしている、家庭で早起き、早寝がスムーズにできるよう午前昼寝を実施しています。1歳半までは午後にも昼寝しています。眠れない子どもには、横になって静


	<p>かに身体を休める時間としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児の午前昼寝後にオムツが濡れていなければおまるに座ってみることから始め、一人一人の発達状況を見ながらトイレトレーニングを進めています。運動をしやすいように1歳児から身体を動かす時にはパンツで過ごしています。 ・園では、濡れた感覚がわかるように布おむつを使用しています。洗濯などは園で行っています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理マニュアルがあり、チェックポイントに沿って、子ども一人一人の健康状態を把握しています。昼食後に検温をし、体調の変化がないか確認しています。 ・お迎えの時に、保護者に園での子どもの健康状態を伝え、対応について話し合っています。お迎えが遅い時には、「受け入れ表」の備考欄に記載するとともに遅番の保育士に口頭でも伝達し、保護者に確実に伝わるようにしています。 ・年2回の内科健診、年1回の歯科健診、毎月の身体測定があり、健康台帳に記録しています。内科健診、歯科健診の結果は、一人一人用紙に記載し保護者に伝えています。 ・感染症予防、まん延防止マニュアルがあります。入園のしおりに登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応について記載するとともに、入園説明会で保護者に説明しています。保育中に感染症が発症した場合には、保護者に速やかに連絡をし、お迎えが来るまで医務スペースで過ごしています。感染症が発症した場合には玄関に掲示し、保護者に情報提供しています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理に関するマニュアルがあります。新年度の職員会議でマニュアルを職員間で読み合わせ、見直しています。また、嘔吐処理の研修を毎年、全職員対象で実施しています。 ・マニュアルに基づき清掃が行われていて、園内は清潔に保たれています。清掃は、保育士と清掃ボランティアで行っています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p>  <p>(5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。</p> <p>(6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理に関するマニュアルがあります。マニュアルは事故や災害に適切に対応していて、新年度の職員会議で読み合わせをし、職員に周知しています。 ・毎月地震や火事等を想定した避難訓練を実施しています。広域避難場所への避難訓練も行っています。 ・子どものケガについては、軽傷であっても必ず口頭で保護者に説明しています。子どもの事故やケガは「インシデント・アクシデントレポート」を用い事故の内容、経過、対応、再発防止策などを記録しています。必要に応じて緊急の職員会議を開催し、対策を徹底しています。

<p>(7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・門と玄関は電子錠で施錠しています。不審者対応マニュアルがあり、緊急通報体制が確立しています。また、民間の警備会社と契約しています。
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重</p>  <p>(1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。</p> <p>(2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。</p> <p>(3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。</p> <p>(4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園では、ノーマライゼーションの理念を大切にしている、気になる事例があった時には職員会議で取り上げ話し合っています。 ・子どもに対して威圧的な言葉遣いなどがないように職員間で話し合っています。子どもの呼称は「ちゃん」「くん」づけで呼んでいて、呼び捨てにはしていません。子どもたちと親しい関係を築けるよう、保育士を「先生」ではなく名前と呼んでいます。 ・保育士は、子どもの人格を傷つけないように職員会議などで話し合いを重ねています。子どもを注意する時には、他の子どもに聞かれないよう場所を変える、一方的に叱るのではなく子どもの気持ちを確かめてから注意するなど、保育士が子どもの自尊心を大切にしている場面を観察時にも見ることが出来ました。「本の部屋」を用い、必要に応じて子どものプライバシーを守れる空間を用意しています。 ・守秘義務や個人情報保護に関する規程があり、入職時に全職員に周知しています。また、個人情報を扱う時に再度確認しています。ボランティアや実習生に対しては、オリエンテーションの時に説明し、誓約書を取っています。保護者に対しては、入園説明会で個人情報の取り扱いについて説明し、写真の掲載等に関する同意書を取っています。個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管し、個人情報管理規程に沿って管理しています。 ・遊びや行事の役割、整列、順番などで性別による区別をしていません。グループ分けは子どもの特徴等を踏まえて職員間で話し合い行っていて、性別で分けることはしていません。
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p>  <p>(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。</p> <p>(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。</p> <p>(3)保護者の相談に応じているか。</p> <p>(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。</p> <p>(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレット、しおりに保育理念と保育目標を掲示し、保護者に周知しています。年度始めの全体懇談会で、保育の基本方針について保護者に具体的に説明しています。全体懇談会の前には親子リズムの会を実施し、保護者が園の取り組みを体験できるようにしています。 ・送迎時には、保育士は子どもの様子をエピソードなど交えながら保護者に伝えています。0～2歳児は連絡帳を用いて毎日保護者と情報交換しています。3～5歳児は連絡帳の使用は自由となりますが、必要に応じて書面でやりとりしています。 ・年1回個別面談を実施しています。個別面談前には生活調査アンケートを実施し、家庭での子どもの様子を把握しています。 ・保護者の相談には、プライバシーに配慮し、「本の部屋」を用いています。相談内容は記録して個人ファイルに綴じ込まれていて、継続的にフォローすることが出来ます。

(6)保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

- ・毎月園だよりを発行しています。各クラスの登園記録表に午前と午後それぞれの活動の様子を記載して玄関に置き、保護者にその日の様子を知らせています。また、年2回のクラス懇談会で、保育内容や目的、子どもの様子を具体的に分かりやすく保護者に伝えています。
- ・保育の様子を写真に撮って、玄関や保育室に掲示しています。また、写真は3ヶ月ごとに外部業者に販売委託をしていて、玄関に写真の見本が置かれています。
- ・年間予定表を作成し、年度始めに保護者に配付しています。保育参観、保育参加をいつでも受け入れています。保育参加期間を設け保護者が参加しやすいようにしています。
- ・保護者会があり、役員会には園長、主任が参加し、常にコミュニケーションを取っています。保護者会との共催行事(夏祭り)の話し合いに担当職員が参加しています。また、保護者会による文集製作への協力をしています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長が地域のお祭りなどの行事に出席し、施設に対する要望等を把握しています。園舎開放や交流保育、育児講座に出席した保護者からの相談を通して地域ニーズを把握しています。また、幼保小連携事業や地区子育て支援事業などの会議に出席し、情報を得ています。 ・地域の子育て支援事業としては、一時保育、園舎開放、交流保育、育児講座などを実施しています。一時保育は一時保育室を用いて一日定員6名で受け入れていて、担当保育士が対応していますが、リズムや給食は幼児クラスと一緒にいるなどの交流もあります。また、障がいなどの特別な課題がある子どもも受け入れています。交流保育として、ランチ交流、一緒に散歩、リズム遊びを実施し、子どもたちと交流しています。 ・育児講座として、「親子ふれあい遊び(ベビーマッサージ)」、「おいしく食べよう!楽しく食べよう!」「つくって遊ぼう」を実施しています。
<p>Ⅲ-2 保育所の専門性を活かした相談機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放や交流保育、育児講座の利用者の育児相談に積極的に応じています。 ・育児相談はいつでも応じていますが、その旨を掲示などで情報提供することは行っていないので、地域にその旨を情報提供するこ



(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。

(2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

とが期待されます。

- ・子育て支援の情報紙「わくわくだより」を発行し、掲示板に掲示するとともに、近隣に挨拶に回る時に配っています。また、神の木地域ケアプラザや地域子育て支援拠点「かなーちえ」に置いて、情報提供しています。
- ・横浜市や神奈川区、東部地域療育センターなどの関係機関のリストがあります。関係機関との連携の担当は園長で、日常的に連携しています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



(1)保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。

(2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。


- ・高齢者デイサービスのお年寄りを招待しています。また、運動会前に近隣に挨拶に行き、声をかけています。園の子育て支援事業への参加者にも参加を呼び掛けています。
- ・地域のお祭り「松見まつり」では、公立保育園と一緒に保育士が子育て支援のブースを出しています。
- ・地域から希望があればいつでも貸し出しに応じて、地域のお祭りの時にパネルシアターの道具を貸し出すなどしています。
- ・横浜市松見集会所のイベントに子どもたちが参加しています。白幡公園こどもログハウス、神大寺中央公園こどもログハウス等に子どもたちが散歩に出かけています。
- ・毎日の散歩では、保育士と子どもたちは地域住民と挨拶を交わし、会話しています。また、隣の公園で地域住民が行っている朝の体操に、子どもたちが参加しています。
- ・年長児は近隣の保育園とドッジボール大会をするなどし、交流しています。小学校とは幼保小連携事業で年長児が交流しています。また、近隣の高齢者デイサービスを子どもたちが訪問して踊りや歌を披露するなどしています。

Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供






(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。

- ・園のホームページで園の情報を提供しています。園のパンフレットを神奈川区地域子育て支援拠点「かなーちえ」に置いています。また、横浜市のホームページ「ヨコハマはびねずぽっと」、神奈川区の広報誌に園の情報を掲載しています。
- ・園の利用希望者に対しては、パンフレットを用い、保育所の基本方針や利用条件、サービス内容について説明しています。利用希望者からの問い合わせには、事務員がいつでも応じています。問い合わせの際には、見学ができることを案内しています。見学の曜日や時間は、見学希望者の希望を聞いて調整しています。朝のリズムを見



<p>(2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<p>学できるよう早目の時間を勧めています。</p>
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア、実習生の受け入れマニュアルがあります。ボランティア、実習生に対しては、オリエンテーションで保育所の方針や利用者への配慮、守秘義務などについて説明しています。 ・ボランティア受け入れの担当は主任で、記録もあります。終了時には、感想文を書いてもらい職員に回覧しています。中学生の体験学習のほか、清掃ボランティアも受け入れています。 ・実習生受け入れの担当は主任で、実習生の希望を聞き、効果的な実習になるようにプログラムを工夫しています。実習時には、毎日、担当したクラスの担任と意見交換しています。最終日には主任と担当したクラス担任で反省会をしています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅴ－１ 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成計画が策定されており、それに基づいて研修がおこなわれています。職員は年度の初めに目標を設定し、年度末に園長、主任との面談でその到達度を確認しています。 ・内部研修は定期的におこなわれており、職員は参加することができます。園外の研修会に参加したときには職員は研修報告書を提出しています。 ・障がい児保育に関する全国の研究会に参加したり、他の保育園と交換研修会を開催するなど、園外の大会や実地研修に積極的に取り組んでいます。 ・非常勤職員の指導担当は主任となっています。クラスの保育士の配置で、常勤と非常勤保育士を必ず組み合わせしており、相互の長所を吸収できるような仕組みを作っています。
<p>Ⅴ－２ 職員の技術の向上</p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。 (2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は自己評価シートで毎年、振り返りをおこなっています。 ・発達心理学の専門家に保育を見てもらうなど外部の専門家から評価、指導を受ける仕組みがあります ・月間指導計画では、保育士はその期を振り返り記録する書式が定められています。振り返りは、期のはじめに立てた計画に対しての評価で、意図した保育の狙いと関連づけておこなわれています。 ・職員間の話し合いから、園の課題や保育の進め方について課題を明らかにしています。 ・保育所としての自己評価する書式が整っており、それに基づいて園としての自己評価をおこなっています。ただし、自己評価結果を外部に

<p>(3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<p>対して公表はしていないので、公表していくことが期待されます。</p>
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p>  <p>(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の経験年数別に役割、目標、研修内容などが設定されています。 ・園長、主任による職員に対する面談により、職員の意向、要望を聴いており、その中で満足度などを把握しています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の倫理規定を定められており、職員に周知しています。 ・他施設での不適切な事例などを職員間で情報共有し、それらの行為をおこなわないように務めています。 ・廃材を利用して帽子入れなどを制作したり、牛乳パックなどを教材として再利用してゴミの減量化に取り組んでいます。 ・園として環境への取り組みについては明文化していません。今後、文章化することが期待されます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>  <p>(1)保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念、保育の基本方針は明文化し、玄関ホール、図書室、事務室等に掲示しています。また、職員に配布しているハンドブックの中に記載しています。 ・現在、園として重要課題である第3園への取り組みが進行中ですが、保護者会で説明し保護者との意見交換をしています。職員に対しても経過等を説明しています。 ・主任はクラスを担当せず、現場に入りつつ職員の業務を把握しています。主任は、個々の職員の状況を把握し、必要な時は具体的な援助や支援をしています。

VI-3 効率的な運営



(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

(2)保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・理事長が重要な情報を集め、保育園に関する新制度などについて職員と情報を共有しています。重要な情報は、リーダー会議で検討し、必要な場合、園全体の取り組み課題としています。
- ・全体像として法人としての将来の経営ビジョンはありますが、中長期計画として文書化されたものではありません。中長期計画を早急に作成し、職員や保護者に提示していくことが期待されます。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2016年12月5日～12月16日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 68.4%（57枚配付、39枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…4人、1歳児クラス…10人、2歳児クラス…7人、3歳児クラス…9人、
4歳児クラス…3人、5歳児クラス…6人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

※ 文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

・問1の保育園の保育目標・保育方針を知っていますか、と言う質問に対して「よく知っている」が56.4%、「まあ知っている」が43.6%と合わせると100%と全員が知っているとの回答でした。さらに、「その保育目標や保育方針は賛同できますか、との質問では「賛同できる」が97.4%、「まあ賛同できる」が2.6%と全員が賛同できるとしており、園の方針に大きな信頼を寄せていることが分かります。

・問2～問7までは個別の領域での質問です。この結果を見ると、多くの項目で90%以上の満足度でした。小項目が全部で37質問がありますが、その中で90%以上の満足度を示した項目が実に32項目にも達しました。それだけ満足度が高かったことが示されます。

・満足度が100%に達した項目を見てみると、問4の日常の保育内容に対する質問項目で、「遊び」についての6項目、「生活」についての7項目はすべて90%以上でした。更に問5の保育園の快適さや安全対策についての質問でも4項目すべてが90%を超えていました。

・これだけ満足度が高いアンケートの中で、不満の回答が見られる項目は問6の園と保護者との連携・交流に関する質問に少し見られました。「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換」で満足が87.2%に対して、不満が10.3%と全項目の中で唯一10%を超えていました。さらに、「お子さんに関する重要な情報の連絡体制について」で、やはり満足度が89.7%に対して不満は7.7%ありました。似たような項目で問5の「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」と問4の「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」についてで、不満の割合がやはり7.7%でした。これらに共通する内容は、保護者とのコミュニケーションと考えられます。

・総合的満足度は「満足」が82.1%、「どちらかという満足」が17.9%と合わせると、やはり100%に達していました。

・自由回答では「生活リズムに配慮した1日のスケジュール、身体を動かし、手作りの給食、おやつを楽しむ季節の感じられるプログラム」「子供を第一に取り組んで頂いており、安心して預けられます」「クラスの先生だけでなく、他クラスの先生も子供のことをよく把握し接してくれています」という肯定的な意見がある一方、「情報や報告を園の掲示だけでなく、メール発信でも確実に伝わる方法をとって欲しい」「ケガや物がなくなってしまった時、園での対応を見直していただけると嬉しいです」といった要望も見られました。

◆まとめ

全体的に見て、保護者が園に対して信頼し、満足している姿が見られました。ほとんどの調査項目で90%以上の満足度ですし、不満とする割合が最大でも10.3%で、不満が少ないアンケート結果といえます。不満のみられる項目は、保護者とのコミュニケーションに関する項目でしたので今後の工夫が期待されます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2016年12月5日～12月16日

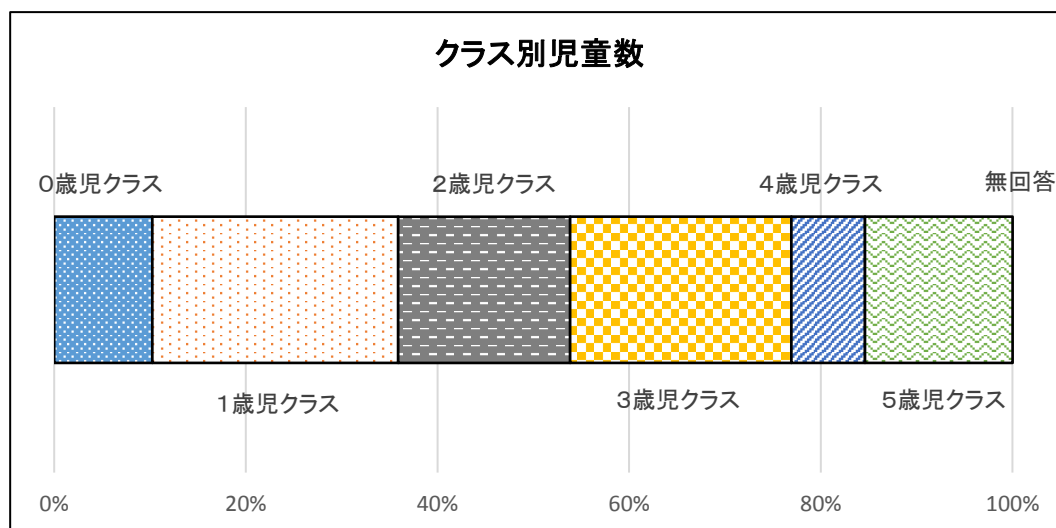
回収率：68.4%（回収39枚／配付57枚）

【属性】

クラス別児童数 (人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
39	4	10	7	9	3	6	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

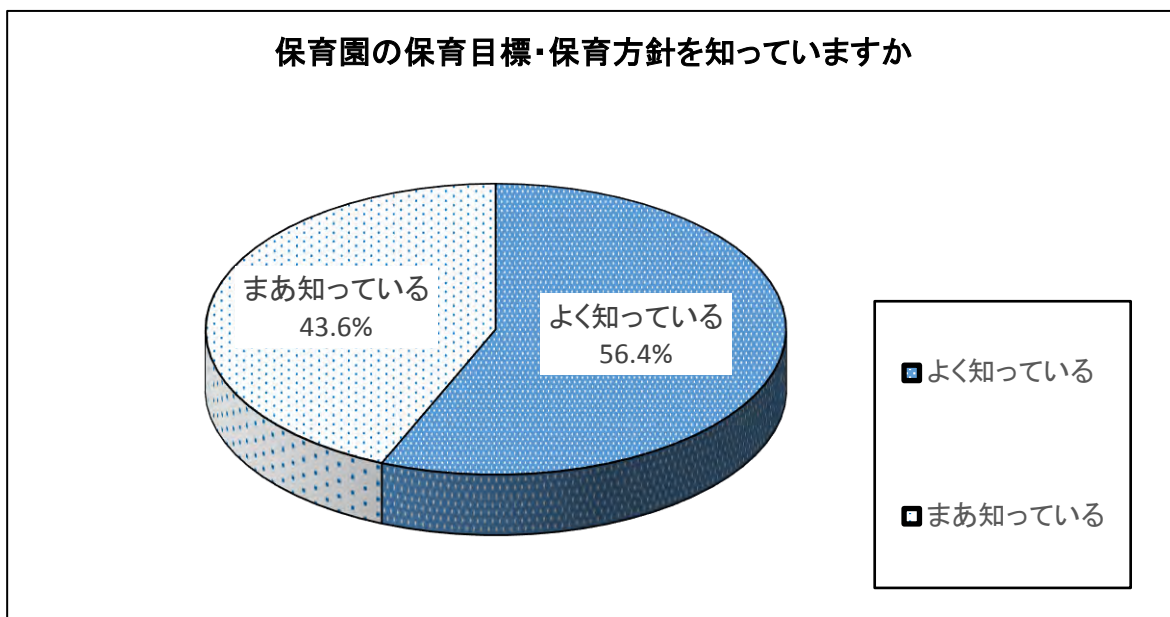


■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	56.4%	43.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

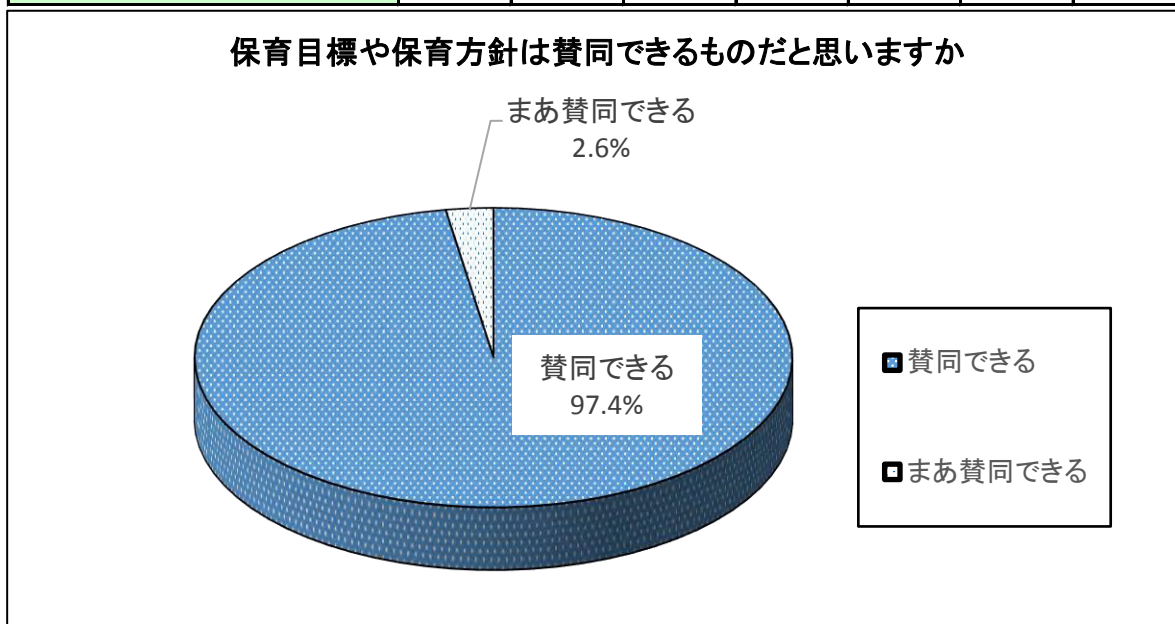
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	97.4%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

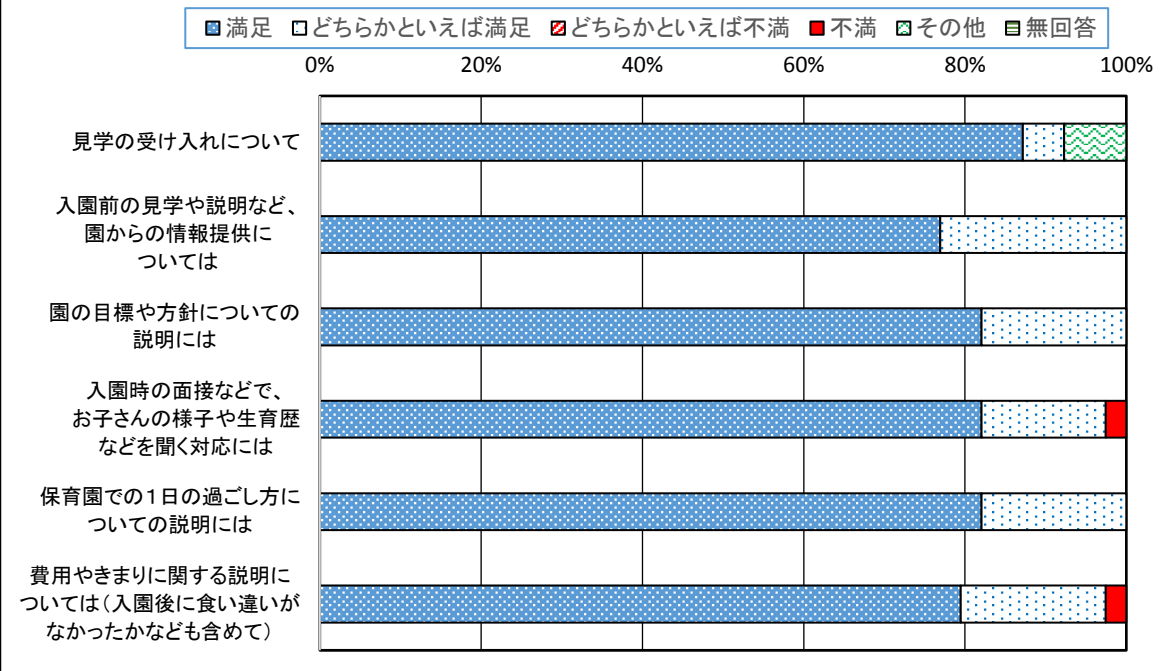


■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	87.2%	5.1%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	76.9%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	82.1%	15.4%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	79.5%	17.9%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	100.0%

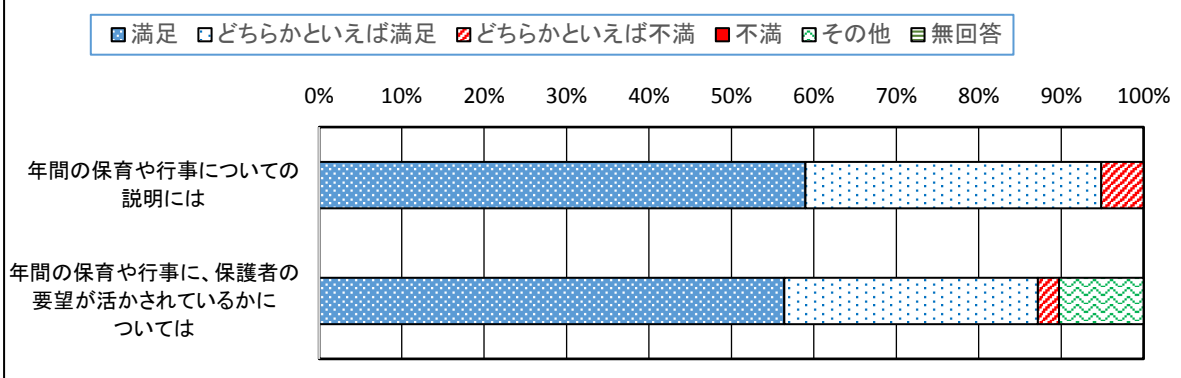
入園時の状況について



問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	59.0%	35.9%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	56.4%	30.8%	2.6%	0.0%	10.3%	0.0%	100.0%

年間の計画について

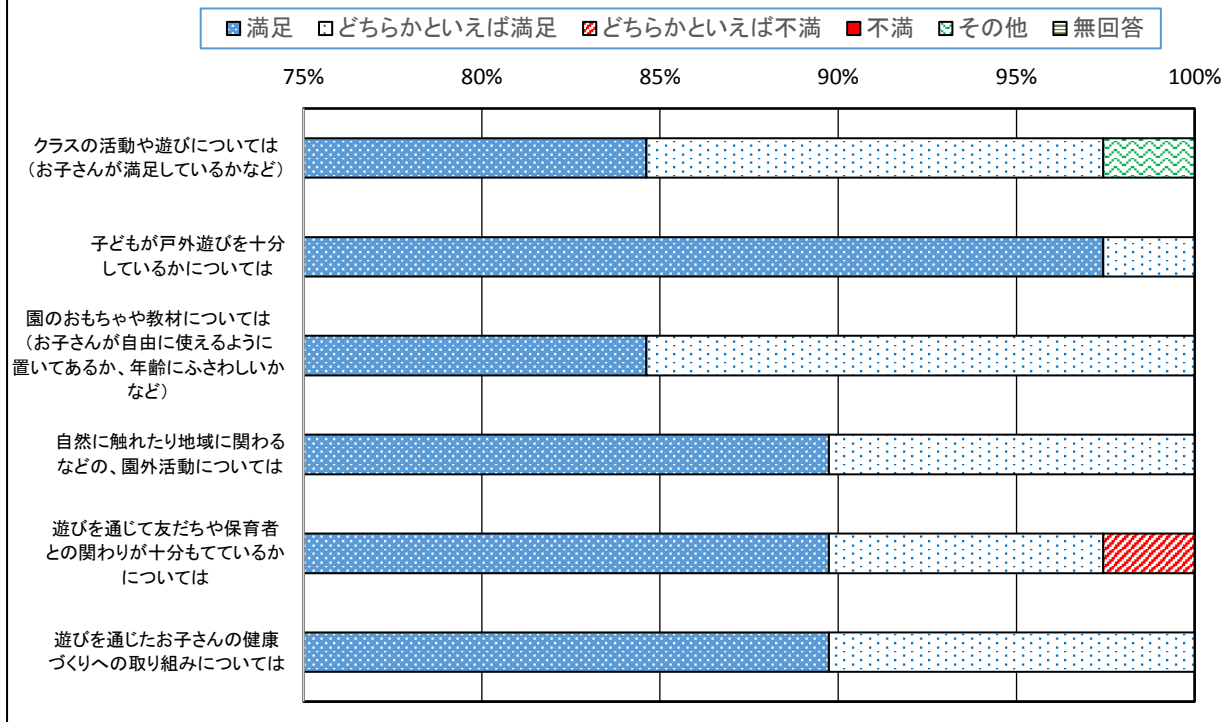


問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	84.6%	12.8%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	97.4%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	84.6%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	89.7%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	89.7%	7.7%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	89.7%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「遊び」について

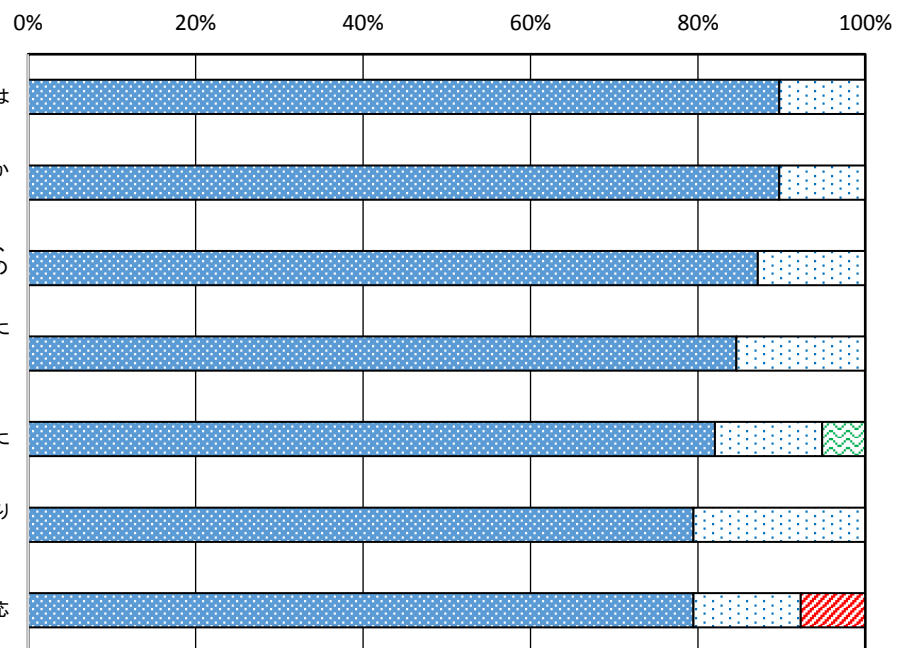


●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	89.7%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	89.7%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	87.2%	12.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	84.6%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	82.1%	12.8%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	79.5%	20.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
保育中であつたケガに関する保護者への説明やその後の対応には	79.5%	12.8%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「生活」について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満 ■ その他 ■ 無回答

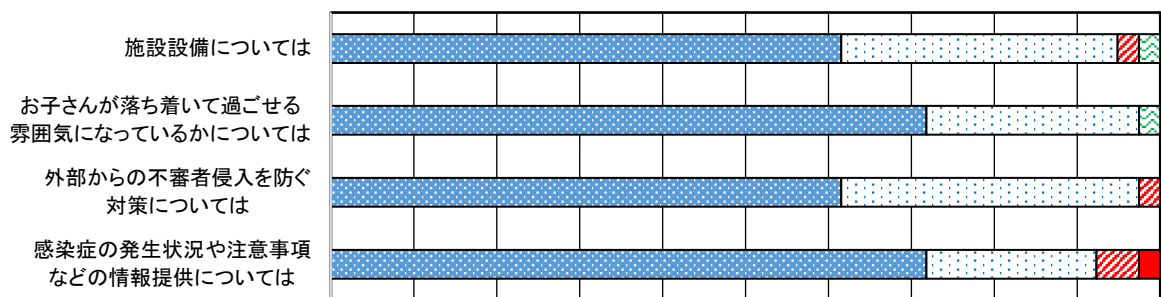


問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	61.5%	33.3%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	71.8%	25.6%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	61.5%	35.9%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	71.8%	20.5%	5.1%	2.6%	0.0%	0.0%	100.0%

快適さや安全対策などについて

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 □ 無回答

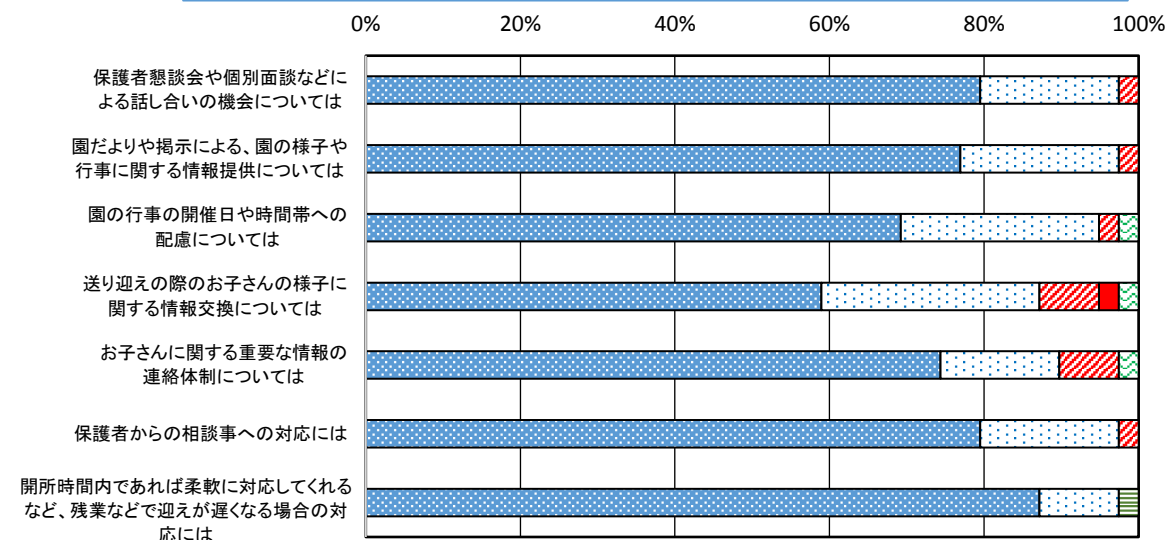


問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	79.5%	17.9%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	76.9%	20.5%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	69.2%	25.6%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	59.0%	28.2%	7.7%	2.6%	2.6%	0.0%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	74.4%	15.4%	7.7%	0.0%	2.6%	0.0%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	79.5%	17.9%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	87.2%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	100.0%

園と保護者との連携・交流について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 □ 無回答



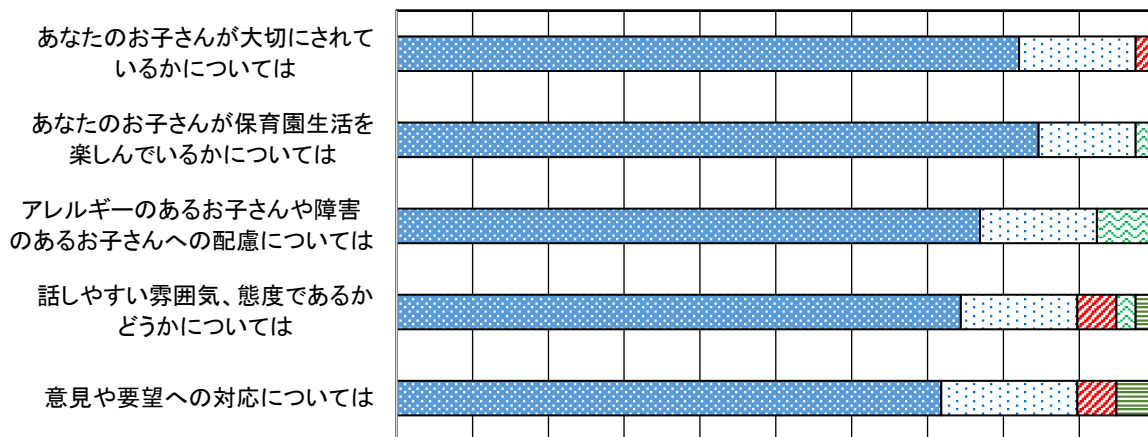
問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	82.1%	15.4%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	84.6%	12.8%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	76.9%	15.4%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	74.4%	15.4%	5.1%	0.0%	2.6%	2.6%	100.0%
意見や要望への対応については	71.8%	17.9%	5.1%	0.0%	0.0%	5.1%	100.0%

職員の対応について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらかといえば不満 ■ 不満 ▨ その他 □ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

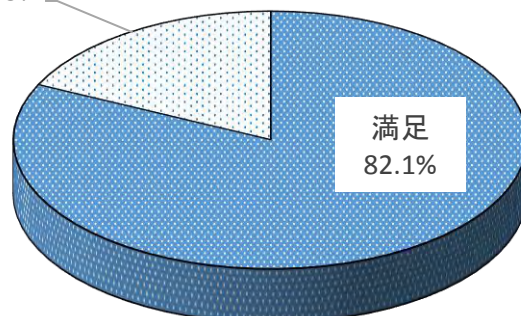


問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

総合満足度

どちらかといえば満足
17.9%



■ 満足
□ どちらかといえば満足

利用者（園児）本人調査 分析

◆ 観察調査 ①2月8日（水）9：00～17：30 ②2月10日（金）8：30～17：00

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

◆ 0歳児クラス （はな組）

朝登園した子どもたちは、手作りの穴に落とすおもちゃやブロック、果物のおもちゃなどで遊んでいます。うまくおもちゃを穴に落とすことが出来ると保育士にたくさん誉めてもらい、子どももうれしそうです。その間に保育士は子どもを一人ずつ誘い、一対一で会話しながら布おむつに替えていきます。ズボンは少し保育士に足を入れてもらい、残りは自分で履きます。子どもたちは保育士に励ましてもらい、自分で履こうと頑張ります。

リズム運動の後には、隣の公園に散歩に行きました。公園では運動器具の下をくぐったり、つかまったり、ぶら下がったりして遊んでいます。子どもがペンペン草に興味を示すと、保育士が摘み取り子どもの耳元で回してみせます。日当たりのよい公園で、子どもたちはそれぞれの興味に合わせ、ゆったりと過ごしています。

午前昼寝の後には、5歳児が着替えを手伝ってくれたり、絵本を読んでもらったりします。エプロンもかけてもらいます。お兄さん、お姉さんも一緒に「いただきます」をして給食です。午前昼寝の後の子どもたちは途中で眠くなることもなく意欲的にスプーンや手づかみで食べています。保育士に、「アムアム」「上手」「お魚だよ」などと声をかけてもらい、スプーンを使おうと頑張ります。子どもたちの食欲は旺盛で、お替りをする子どももいました。

◆ 1歳児クラス （にじ組）

子どもたちはままごと遊びに夢中で、自由遊びの時間には、キューピー人形を赤ちゃんと呼んで、抱っこしたり、背中に背負ったりして、楽しそうにしています。人形をかごや保育士手作りの台に寝かせている子どもや台をさかさまにして人形を乗せベビーカーのように押している子どももいます。

2歳児と合流して朝のリズム運動が始まります。「トンボのめがね」「お馬の親子」「もしもしカメよ」など、保育士のピアノに合わせてのびのびと身体を動かします。2歳児が大きく反り返って作ったトンネルの中を1歳児が這い這いして通るなど、子どもたちは保育士の指示をととてもよく理解することが出来ます。観察日は2階のホールで0歳児と一緒に身体を動かしました。室内には、乳児用トランポリン、すべり台、はしごなどの障害物が設置されており、子どもたちは好みの場所で遊びます。それぞれの障害物のそばについている保育士に、やり方を教えてもらったり、手助けしてもらい、子どもたちは楽しみながら少しずつ難しいことに挑戦していきます。

活動後には午前昼寝に備えトイレに行きます。自分でパンツを脱いで便器に座り、紙パンツをはきます。パジャマへの着替えも自分でしようと頑張ります。保育士に手助けしてもらいながら、少しずつ自分でできることが増えている1歳児です。

◆ 2歳児クラス （ほし組）

2歳児の朝は3階の3・4歳児保育室の雑巾掛けから始まります。保育士の「位置について、ヨーイドン」という声で子どもたちがから拭きの雑巾掛けを往復します。

観察日は2歳児と5歳児が散歩に行きました。線路沿いの道で子どもたちが一斉に手をふると、電車の運転手が警笛をならして手を振り返してくれ、子どもたちは大喜びです。次の電車にも手を振りましたが、

気が付いてもらえません。電車が来るたびに繰り返した結果、最後に車掌が大きく手を振ってくれて子どもたちは満足しました。

散歩先の公園では、芝生の山が人気で、子どもたちは山を登り降りし、石を集めたりしています。枝をつかんで抜こうと頑張っている子どももいます。そのうちに一人がお尻で坂を滑り降りると、それを見ていた皆も続きます。草の上を転がる子どもがいて、皆も真似をします。皆、楽しそうに笑い合っています。草や枝を集めて積み上げたき火の真似を始めると、保育士が葉を差した枝を持ってきて「魚を焼いて」と頼み、子どもが「焼けました」と応じます。それを見て、他の子どもたちも真似をし、棒に魚を差して魚釣り、それを持ってきてバーベキューと遊びが広がっていきます。帰る時には、遊びに満足した子どもたちから「またこの公園に来たい」という声が上がっていました。この日は、おやつも手をつないだ5歳児のお兄さん、お姉さんと一緒に向かい合って食べました。

◆ 幼児の朝のリズム体操

子どもたちの朝は雑巾掛けで始まります。自分達で雑巾を濡らして絞り、しっかりと腰をあげ床を足で強く蹴って、長いホールを一斉に雑巾掛けします。終わった子どもは、テーブルに足をかけて腕立て伏せの姿勢で待ちます。全員が揃ったところで、腕立て伏せの姿勢で60まで数えます。クラスごとに点呼した後は、ピアノに合わせてのリズム運動です。音楽に合わせて、はいはい、ほふく前進、ブリッジ、自転車こぎ、バランス、うさぎ跳びなど様々な体操を行います。曲調が変わると、子どもたちもすぐに反応し、動きを切り替えることができます。鬼ごっこなどゲーム性のあるものもあり、子どもたちは楽しみながら思いっきり身体を動かしています。

◆ 3歳児クラス (やま組)

功技台と一本橋、とび箱を使つての運動遊びでは、子どもたちはジャンプをしたりと色々挑戦しています。とび箱には、自分でわかるように手をつく場所に赤いテープが貼られていて、子どもたちは傍にいた保育士に「手が、ずずっと前に滑っちゃっているから、しっかりついて!」「上手!」などと声をかけてもらい挑戦します。途中、子どもたちから「とび箱を2段にしてほしい!」という声があがり、それに対して「それだったら、みんなとび箱簡単にできちゃう」と反論する子どももいて言い争いになります。保育士は子どもたちの話し合いの様子を傍で見守っていますが、最終的に「最初は2段にして、みんなが上手にできたら3段にする?」と提案し、子どもたちも納得しました。

午後の散歩では、4歳児と一緒に片道45分ほどかかる長距離の散歩に出かけました。公園までの道は大人の歩く速さよりやや速く進み、途中の細い坂道は、全速力で走って登ります。息が上がる子どももいますが、皆がんばってついていきます。公園では、遊具で遊んだりサッカーをしたりして、思い思いに身体を動かして遊びます。帰りも公園の出口までダッシュで坂道を登り、その後、園までの道を4歳児と手をつなぎ、歩いて帰りました。

◆ 4歳児クラス (そら組)

折り紙が配られ皆で雪だるまを作ります。折り方が複雑ですが、保育士のお手本を見ながら集中して折っていきます。全員が雪だるまを完成させると、黒い画用紙に雪だるまを貼り、クレヨンで顔や手足、雪の降る様子などを描いていきます。雪だるまの表情や雪の降り方も皆違って、子どもの個性が良く出ています。給食後の自由遊びの時間には、カルタ遊びや自由帳にお絵かき、トランプ、こままわしパズルなど、小グループができて好きに遊びます。

その後、2歳児から5歳児と一緒に、歌の時間を楽しみます。保育士のピアノに合わせて、ピアノに合わせて、「雪やこんこ」、「北風小僧の寒太郎」、「森のくまさん」などを元気よく歌います。子どもたちは歌詞を

よく覚えています。歌の後には、異年齢でダンスを楽しみました。

観察日は雪が降ったので、午後はホールで3歳児とドッジボールを楽しみました。クラス対抗、グループで分けて3、4歳混合グループなど、数試合します。ビニールの軽いボールを使っているため、3歳児でも軽く投げることができます。ルールをよく理解していない子どもには、「今のアウトだよ！」と分かっている子どもが指示し、子ども同士で楽しんで遊んでいます。

◆ 5歳児クラス (たいよう組)

隣の公園でドッジボールをします。子どもたちがグラウンドにドッジボール用の線を引き、イカチームとタコチームに分かれて、ドッジボールが始まります。1試合目、5対4でタコチームが勝つと、保育士は作戦会議タイムを設け、両チームの子どもたちに勝因や敗因をじっくりと考えさせます。2試合目はイカチームが勝ち1勝1敗ずつとなり、作戦会議にさらに熱が入ります。投げ方・受け方、逃げ方、外野の役割など、細かく作戦を立てられるように、保育士がサポートし、子どもたちの考えを引き出しています。3試合目はタコチームが勝ち、総合優勝となりました。試合後、一人で泣いている子どもがいたため、数名の子どもがその子どもを囲んで丁寧に理由を聞いています。試合には勝ったけど、自分自身が勝利に貢献できていなくて、悔しくて泣いていることがわかると、皆でその子どもの気持ちを共有し合い、泣いていた子どもも「理由を聞いてくれてありがとう」と伝えています。

給食の時には、自分で主菜、副菜、ご飯、汁をよそい、ちゃぶ台やテーブルを囲んで楽しく賑やかにおしゃべりしながら食事をします。たくさん身体を動かしているからお替りする子どもも多いです。このように、いつも賑やかで元気な5歳児ですが、昼食後の絵本の読み聞かせの時間には、皆集中して聞き入り、物語に引き込まれていました。

◆ まとめ

朝の雑巾掛けとリズム運動から始まり、子どもたちは身体をたくさん動かし、元気に園生活を過ごしています。毎日の積み重ねの結果、子どもたちは、強い筋力や脚力、反射力が育っています。異年齢での関わりも多く、年下の子どもは年下の子どもの世話をすることを楽しみ、年下の子どもは年上の子どもの真似をし、お互いに多くのことを学び合っています。

事業者コメント

保護者の皆様には、お忙しい中、アンケートのご協力を頂きありがとうございました。
高い評価を頂き感謝申し上げますとともに、今後も、お気持ちに答えることのできる保育をしていかなければと感じています。

そのひとつとして

1. ケガに対する保護者への説明、対応が十分に出来てない面がある。
全職員が（パートを含め）親切、丁寧な説明と即応することが大事と思います。
職員会議等で注意、周知することとします。
2. ゴミ減量化と分別収集あるいはリサイクル等をもっと職員へPR、情報の共有を図ります。
3. 地域住民に対する情報提供（園庭開放、交流保育、育児相談）周知、PR、交流を今後も積極的にすすめます。

ということを具体化していくとともに、課題改善に努め、ご評価頂けたことを励みとして「子ども一人ひとりを大切にする」保育園であり続けられるよう、これからも職員一同力をあわせていきたいと思えます。

理事長 玉沢 巖

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

●市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

●横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kenkou/fukushi/>

●かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 N G S横濱馬車道802号室

TEL : 045-222-6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>